

Cubase LE 4インストールガイド／ コントロールサーフェース操作ガイド

この「Cubase LE 4 インストールガイド／コントロールサーフェース操作ガイド」では、Cubase LE 4 をパソコンにインストールし、HD8／HD16をコントロールサーフェースとして使用するための手順を説明します。

※文中のメーカー名、製品名は各社の商標または登録商標です。

Cubase LE 4のインストールと設定

パソコンに Cubase LE 4 をインストールして、HD8 / HD16をCubase LE 4のコントロールサーフェースとして利用できるように設定を切り替えます。

NOTE

以下の操作では、本製品に付属のDVD-ROM “Cubase LE 4” が必要です。

1. 付属DVD-ROM “Cubase LE 4” を使って、Cubase LE 4をパソコンにインストールしてください。

ご使用になるプラットフォーム／OSに応じて、次のように操作します。

■ Windows Vista／XPの場合

①本機に付属するDVD-ROM “Cubase LE 4” をパソコンのドライブに挿入します。

②挿入した DVD-ROM の操作を尋ねる画面が表示されますので、“フォルダを開いてファイルを表示”を選んでください。

③DVD-ROM の内容が表示されたら、“Cubase LE 4 for Windows” フォルダを開き、“Setup.exe” ファイルをダブルクリックしてインストールを行います。



DVD-ROMを挿入しても何も起きない場合は、“スタート”メニューから“コンピュータ”（XPでは“マイ コンピュータ”）を選び、表示される“Cubase

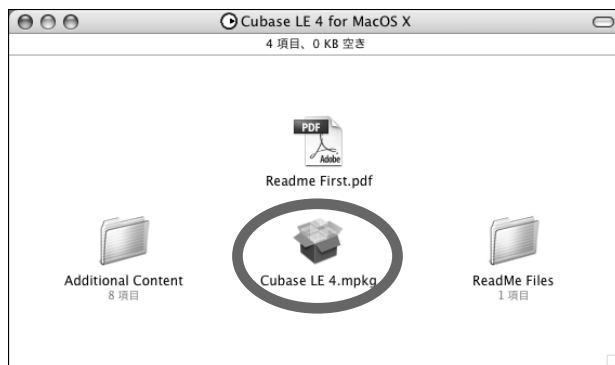
LE 4” DVD-ROMのアイコンをダブルクリックして開き、DVD-ROMの内容を表示させてください。

■ MacOS Xの場合

①本機に付属するDVD-ROM “Cubase LE 4” を Macintoshのドライブに挿入します。

②自動的に DVD-ROM の内容が表示されますので、“Cubase LE 4 for MacOS X” フォルダを開き、Cubase LE 4.mpkg”をダブルクリックしてインストールを実行します。

なお、DVD-ROMを挿入しても何も起きない場合は、デスクトップに表示される“Cubase LE 4”アイコンをダブルクリックします。



NOTE

Cubase LE 4 のインストール終了後に、アクティベーション（ソフトウェアライセンスの認証）の管理を行うソフトウェアのインストールを促す画面が表示されます。このソフトウェアは、Cubase LE 4の製品登録に必要なので、続けてインストールしてください。

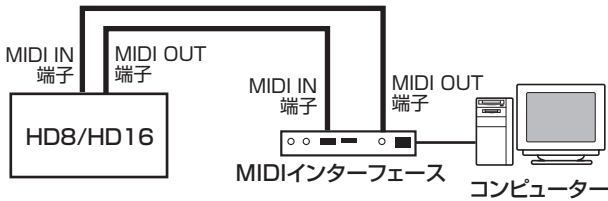
2. HD8／HD16とパソコンを接続してください。

HD8／HD16をパソコンに接続するには、USB端子、またはMIDI IN／OUT端子を使用します（MIDI端子を使用するときは、パソコン側にMIDIインターフェースが必要です）。

■ USB端子を使用する場合



■ MIDI IN／OUT端子を使用する場合



3. HD8／HD16の電源を入れてください。
4. 以下の手順に従ってHD8／HD16を操作し、パソコンとの接続に使用する端子を選択してください。

- ① メイン画面が表示されているときに [PROJECT/UTILITY] キーを押し、左右のカーソルキーを使ってディスプレイの2行目に“SYSTEM”と表示させます。

```
REC UTILITY 4/10
>SYSTEM
```

- ② [ENTER] キーを押します。
表示が次のように変わります。

```
SYSTEM 1/7
>FOOT SWITCH
```

- ③ 左右のカーソルキーを使って、ディスプレイの2行目に“CONTROL SURFACE”と表示させ、[ENTER] キーを押します。

```
Control Surface
USB
```

この画面では、パソコンとの接続に使用する端子を選びます。

- ④ ダialを回して、パソコンとの接続に使用する端子として“USB”（USB端子）または“MIDI I/O”（MIDI IN／OUT端子）を選びます。ここで選択した端子を経由して、リモート操作の信号がやり取りされます。
- ⑤ 繰り返し [EXIT] キーを押して、メイン画面に戻ります。

HD8／HD16をコントロールサーフェースモードに切り替える

HD8／HD16をコントロールサーフェースモードに切り替えます。また、コントロールサーフェースの動作モードとして“Mackie Control”を選びます。

1. HD8／HD16のメイン画面で、[SHIFT]キーを押しながらパッド2（CONTROL SURFACE）を押してください。
コントロールサーフェースモードへの切り替えを確認する表示に変わります。
2. [ENTER] キーを押してください。
HD8／HD16がコントロールサーフェースモードに切り替わります。

```
Stat: Mute Bank: 1
PAN
```

3. [FUNCTION] キーを押してください。
コントロールサーフェースモードの設定を行うCTRLR SETUP 画面が表示されます。

```
CTRLR SETUP 1/1
>MODE SELECT
```

4. ディスプレイ2行目に“MODE SELECT”と表示されていることを確認し、[ENTER] キーを押してください。
コントロールサーフェースの動作モードを選択する画面が表示されます。

```
Mode Select
Generic Remote
```

この画面では、次の2種類の動作モードが選択できます。

- **Generic Remote**
Cubase LEをGeneric Remoteでコントロールするモードです。

NOTE

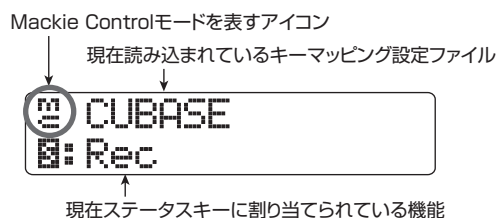
Generic Remoteモードでは、Cubase LE 4をリモートコントロールすることはできません。必ずMackie Controlモードを選んでください。

- **Mackie Control**
MackieのコントロールサーフェースMackie Controlの動作をエミュレートするモードです。

5. Dialを回して“Mackie Control”を選択し、

[ENTER]キーを押してください。

HD8／HD16がMackie Controlモードに切り替わり、ディスプレイが次のように変化します。



この画面の1行目には、Mackie Controlモードのアイコンと、現在読み込まれているキーマッピング設定ファイル（HD8／HD16のキー配列をDAWソフトウェアに対応させる設定ファイル）が表示されます。また、2行目には、現在ステータスキーに割り当てられている機能が表示されます。

6. 次の手順で、Cubase LE 4用のキーマッピング設定ファイルを読み込んでください。

- ① [FUNCTION]キーを押し、コントロールサフェースの設定メニューを表示させます。



- ② 左右のカーソルキーを使ってディスプレイに“FILE SELECT”と表示させ、[ENTER]キーを押します。

キーマッピング設定ファイルの選択画面が表示されます。



↑
キーマッピング設定ファイル名

- ③ ダialを回して Cubase LE 4用のキーマッピング設定ファイル“CUBASE.BDF”を選択し、[ENTER]キーを押します。

キーマッピング設定ファイルが読み込まれます。

NOTE

- ・ Mackie ControlモードとUSBマストレージモードの同時使用時には、設定ファイルを読み込むことができません。
- ・ Mackie ControlモードとUSBマストレージモードを同時に使用したいときは、キーマッピング設定ファイルの読み込みを行った後にUSBマストレージモードを起動してください。
- ・ USBマストレージモードとの同時使用についての詳細は、HD8/HD16オペレーションマニュアル“マストレージモードとコントロールサーフェースモードを同時に使用する”をご参照ください。

HINT

HD8／HD16には、Cubase LE 4に対応したキーマッピング設定ファイルが内蔵されています。その他の各社DAWソフトウェアへの対応については、ズームWebサイト (<http://www.zoom.co.jp>) をご参照ください。

NOTE

- ・ Generic Remoteモードでは、Cubase LE 4をリモートコントロールすることはできません。必ずMackie Controlモードを選んでください。
- ・ 手順2でコントロールサーフェースモードに切り替えたときに上記の画面が表示される場合、既にMackie Controlモードが選ばれています。この場合、手順3～5の操作は不要です。

Cubase LE 4の起動と設定

Cubase LE 4を起動し、使用するコントロールサーフェースの種類としてMackie Controlを選択します。

1. Cubase LE 4を起動してください。

Cubase LE 4を起動するには、使用しているプラットフォーム／OSに応じて次の操作を行います。

■ Windows Vista／XPの場合

インストール時にデスクトップに作成されたショートカットアイコンをダブルクリックします。

■ MacOS Xの場合

“アプリケーション”フォルダにインストールされたCubase LE 4のアイコンをダブルクリックします。

NOTE

Cubase LE 4は、必ずHD8／HD16をコントロールサーフェースモードに切り替えた後に起動してください。

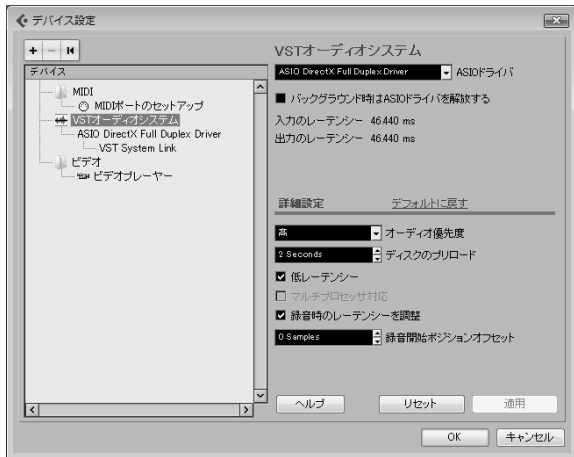
なお、Cubase LE 4を継続してご使用いただくためには、アクティベーション（ライセンス認証＋製品登録）と呼ばれる操作が必要になります。Cubase LE 4を起動したときに、製品登録を求める画面が表示されますので、“今すぐ登録”をクリックしてください。インターネットブラウザが起動し、アクティベーションを行うWebサイトが呼び出されますので、このWebサイトの指示に従ってアクティベーションを行ってください。

HINT

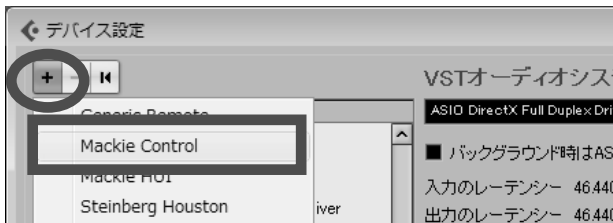
以降の操作は、Windows Vista／XP、MacOS Xに共通です。説明にはWindows Vistaの画面を使用します。

2. Cubase LE 4が起動したら、“デバイス”メニューから“デバイス設定...”を選んでください。

使用するリモートデバイスの種類を選ぶ“デバイス設定”ウィンドウが表示されます。

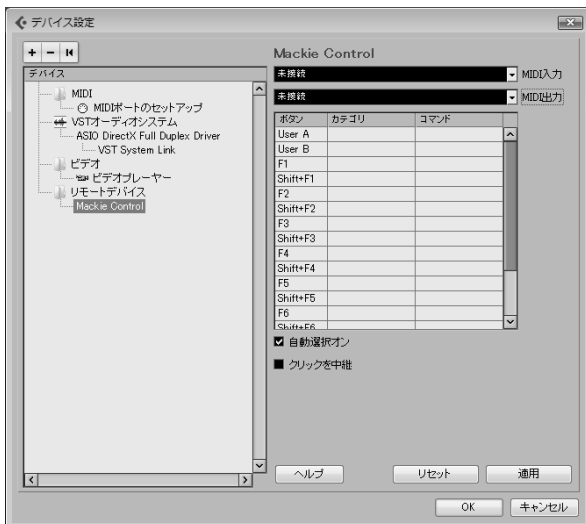


3. デバイス設定ウィンドウ左上の“+” ボタンをクリックし、表示されるメニューから“Mackie Control”を選んでください。

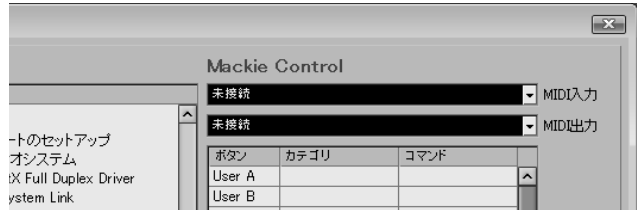


これでデバイス設定ウィンドウの左側にリモートデバイスとして“Mackie Control”が追加されます。

4. デバイス設定ウィンドウ左側の“Mackie Control”をクリックして選んでください。次のような表示に切り替わります。



5. デバイス設定ウィンドウ右側のMIDI入力／MIDI出力のプルダウンメニューを使って、HD8／HD16を接続しているMIDIポートを選択してください。



■ USB経由で接続している場合

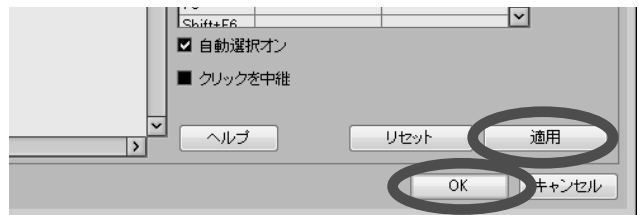
MIDI入力／MIDI出力プルダウンメニューで、“HD8”または“HD16”（Windows XP の場合は“USBオーディオデバイス”）を選択します。

■ MIDI経由で接続している場合

MIDI インターフェースなど、対応するMIDIポートを選択します。

6. “適用” ボタンをクリックし、次に“OK” ボタンをクリックしてください。

デバイス設定ウィンドウが閉じ、HD8／HD16を使って Cubase LE 4 をリモートコントロールできるようになります。



HINT

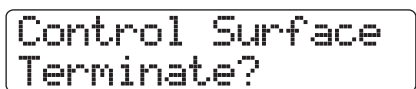
Cubase LE 4内の設定は自動的に保存されます。次回Cubase LE 4を起動するときは、上記の設定を再度行う必要はありません。

コントロールサーフェースモードを抜け出すには

コントロールサーフェースモードを抜け出してHD8／HD16を通常モードに戻すには、次の操作を行ってください。

1. コントロールサーフェースモードを出るには、[SHIFT] キーを押しながらパッド 2 (CONTROL SURFACE) を押してください。

表示が次のようになります。



2. [ENTER] キーを押してください。メイン画面に戻り、通常のリコーダーの動作に戻ります。

コントロールサーフェース機能を使う

ここでは、HD8／HD16をコントロールサーフェースモードに切り替えて使用するときの操作方法について説明します。

コントロールサーフェースモードについて

HD8／HD16をコントロールサーフェースモードに切り替え、動作モードとしてMackie Controlを選ばると、HD8／HD16のキーやフェーダーを使って、Cubase LE 4のトランスポート操作やミックス操作をリモートコントロールできます。

HD8／HD16をコントロールサーフェースモードに切り替えて、動作モードとしてMackie Controlモードを選んだときは、HD8／HD16のディスプレイが次のようになります。

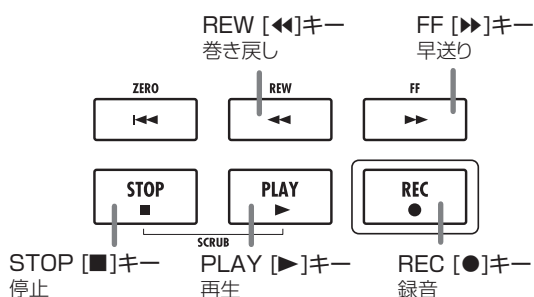


コントロールサーフェースモードでは、HD8／HD16のレコーダー機能が使用できなくなり、パネル上のキーやノブに、Cubase LE 4の特定の機能が割り当てられます。また、HD8／HD16のレベルメーターにCubase LE 4の対応するトラックのフェーダーの位置が表示されます。

Mackie Controlモードを選んだときに、HD8／HD16のキーやノブに割り当てられる機能の一覧については、本紙の“コントロールサーフェースモードの機能早見表”（→P8）をご参照ください。

トランスポートを操作する

HD8／HD16がコントロールサーフェースモード（動作モード＝Mackie Control）のとき、トランスポートセクションの各キーは、Cubase LE 4の次の機能に対応します。



ファンクション／トランスポートセクションのその他のキーが対応するCubase LE 4の機能については、本紙の“コントロールサーフェースモードの機能早見表”（→P8）をご参照ください。

バンクについて

HD8／HD16がコントロールサーフェースモード（動作モード＝Mackie Control）のとき、フェーダーセクションの操作子（フェーダー、ステータスキー、パラメーターノブ）を使って、Cubase LE 4の主要なパラメーターを操作できます。

NOTE

HD8では、[RHYTHM]のフェーダー、ステータスキー、パラメーターノブも使用しますが、HD16ではこれらの操作子は“未定義”になっています。

フェーダーセクションの操作子（フェーダー、ステータスキー、パラメーターノブ）を使って操作するトラックの組み合わせを“バンク”と呼びます。

Mackie Controlモードでは、1つのバンクで連続した8トラックを操作できます。例えば、フェーダー1がCubase LE 4のトラック1に割り当てられている場合、次の表のようにトラック1～8が操作対象となります。

●HD8の場合

操作子	1	2	3	4	5	6	7/8	[RHYTHM]
トラック	Tr. 1	Tr. 2	Tr. 3	Tr. 4	Tr. 5	Tr. 6	Tr. 7	Tr. 8

●HD16の場合

操作子	1	2	3	4	5	6	7	8
トラック	Tr. 1	Tr. 2	Tr. 3	Tr. 4	Tr. 5	Tr. 6	Tr. 7	Tr. 8

フェーダーセクションで操作するトラック（チャンネル）を変更するには、以下のキーを使用します。

●[AUTO PUNCH IN/OUT]キー（<CHANNEL）

フェーダーセクションに割り当てられているトラック（チャンネル）を1つ前に移動します。

●[A-B REPEAT]キー（CHANNEL>）

フェーダーセクションに割り当てられているトラック（チャンネル）を1つ後に移動します。

例えば、上の表のようにトラック1～8が割り当てられているときに[A-B REPEAT]キー（CHANNEL>）を1回押すと、次の表のように変化し、トラック2～9が割り当てられます。

●HD8の場合

操作子	1	2	3	4	5	6	7/8	[RHYTHM]
トラック	Tr. 2	Tr. 3	Tr. 4	Tr. 5	Tr. 6	Tr. 7	Tr. 8	Tr. 9

●HD16の場合

操作子	1	2	3	4	5	6	7	8
トラック	Tr. 2	Tr. 3	Tr. 4	Tr. 5	Tr. 6	Tr. 7	Tr. 8	Tr. 9

●[TRACK PARAMETER]キー（<BANK）

フェーダーセクションに割り当てられているトラック（チャンネル）を、8トラック単位で前に移動します。

●[INPUT SOURCE]キー (BANK>)

フェーダーセクションに割り当てられているトラック (チャンネル) を、8トラック単位で後に移動します。

例えば、前ページの最後の表のようにトラック2～9が割り当てられているときに[INPUT SOURCE]キー (BANK>) を1回押すと、割り当てが次のように変化します。

●HD8の場合

操作子	1	2	3	4	5	6	7/8	[RHYTHM]
トラック	Tr. 10	Tr. 11	Tr. 12	Tr. 13	Tr. 14	Tr. 15	Tr. 16	Tr. 17

●HD16の場合

操作子	1	2	3	4	5	6	7	8
トラック	Tr. 10	Tr. 11	Tr. 12	Tr. 13	Tr. 14	Tr. 15	Tr. 16	Tr. 17

フェーダーセクションを操作する

フェーダーセクションのフェーダー、パラメーターノブ、ステータスキーを使って、Cubase LE 4の対応するトラックのボリューム、パン、ミュート／録音待機／ソロのオン／オフ切り替えが行えます。

1. Cubase LE 4の操作したいトラック (チャンネル) をフェーダーセクションに割り当ててください。

操作対象トラックの選択方法については“バンクについて” (→P5) をご参照ください。

2. フェーダーとパラメーターノブを使って、対応するトラックのボリュームとパンを操作してください。

フェーダー／パラメーターノブは、それぞれ対応するトラックのボリューム／パンに対応しています。[MASTER]フェーダーを操作すると、マスターボリュームが変化します。

NOTE

HD16では、[RHYTHM]フェーダー／[RHYTHM]パラメーターノブの機能は未定義です (使用しません)。

3. ステータスキーで操作する機能を切り替えるには、[SELECT]キーを繰り返し押ししてください。

ステータスキーを使えば、対応するトラックの Mute (ミュート)、Rec (録音待機)、Solo (ソロ) のオン／オフを切り替えることができます。ステータスキーで操作する機能を選ぶには、[SELECT]キーを使います。キーを押すたびにMute→Rec→Soloの順に切り替わります。

HINT

現在ステータスキーに割り当てられている機能 (Mute、Rec、Solo) は、ディスプレイ2行目の表示で確認できます。

4. 目的のトラックのステータスキーを押し、選択したパラメーターのオン／オフを切り替えてください。

オーディオデータをCubase LE 4に取り込む

HD8／HD16とパソコンをUSBケーブルで接続し、HD8／HD16をマストレージモードに設定すると、HD8／HD16のオーディオデータをWAVファイルとしてCubase LE 4のオーディオトラックに取り込むことができます。

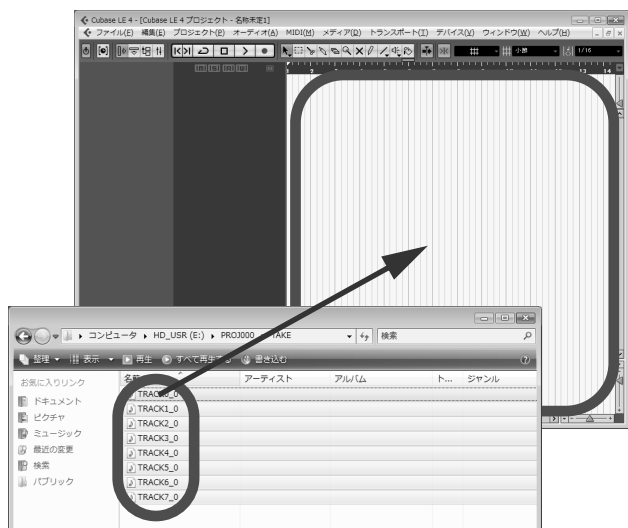
ここでは、HD8／HD16のオーディオデータをCubase LE 4に取り込む方法について説明します。

これを行うには、次の2つの方法があります。

- ドラッグ&ドロップで取り込む
- “読み込み”コマンドで取り込む

ドラッグ&ドロップで取り込む

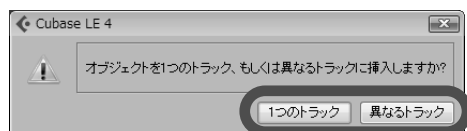
1. コンピューターとHD8／HD16をUSBケーブルで接続してください。
2. HD8／HD16をマストレージモードに切り替えてください。
操作方法は、HD8／HD16オペレーションマニュアルのP161をご参照ください。
3. Cubase LE 4を起動し、取り込み先となるプロジェクトを開いてください。
4. コンピューター上に表示されるHD8／HD16のハードディスクの中から、取り込み元となるオーディオデータの入ったプロジェクトの“TAKE”フォルダを開いてください。
操作方法はオペレーションマニュアルのP162をご参照ください。
5. “TAKE”フォルダの中から取り込みたいファイルを選択し (複数選択可)、Cubase LE 4のプロジェクトウィンドウにドラッグ&ドロップしてください。



ファイルをドラッグアンドドロップすると、取り込んだファイルを Cubase LE 4 上にどのように並べるかを選択するウィンドウが表示されます。

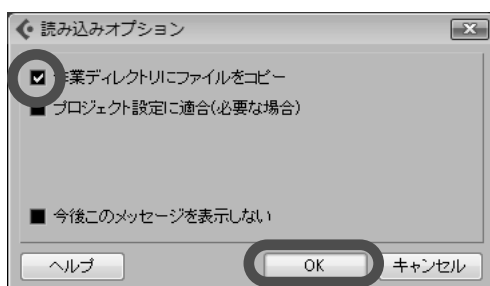
6. “異なるトラック” または “1つのトラック” をクリックして、取り込み方法を選択してください。

通常は“異なるトラック”を選びます。こうすれば、取り込んだファイルの数だけ自動的にトラックが作成され、ファイルが縦方向に配置されます。“1つのトラック”を選べると、1本のトラックに横方向に配置されます。



取り込み方法を選べると、“読み込みオプション”ウィンドウが開きます。

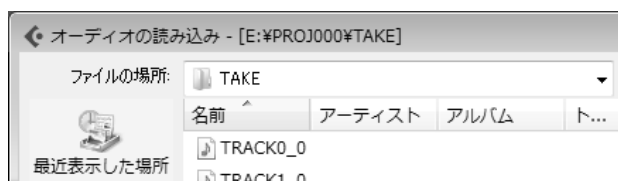
7. “読み込みオプション”ウィンドウの“作業ディレクトリにファイルをコピー”にチェックを付け、“OK”をクリックしてください。



オーディオデータが Cubase LE 4 のトラックに取り込まれます。

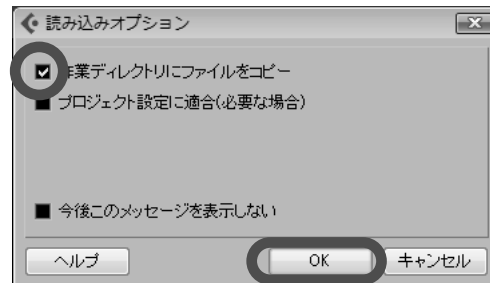
“読み込み”コマンドで取り込む

1. “ドラッグ&ドロップで取り込む”の手順 1～3 に従って、Cubase LE 4 のプロジェクトを開いてください。
2. Cubase LE 4 の“ファイル”メニューから“読み込み”→“オーディオファイル...”を選択してください。“オーディオの読み込み”ウィンドウが開きます。
3. 取り込みたいファイルを含むプロジェクトの“TAKE”フォルダの中からオーディオファイルを選択して（複数選択可）、“開く”をクリックしてください。



ファイルを開くと“読み込みオプション”ウィンドウが開きます。

4. “読み込みオプション”ウィンドウの“作業ディレクトリにファイルをコピー”にチェックを付け、“OK”をクリックしてください。

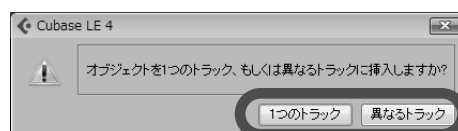


取り込んだファイルを Cubase LE 4 上にどのように並べるかを選択するウィンドウが表示されます。

5. “異なるトラック” または “1つのトラック” をクリックして、取り込み方法を選択してください。

オーディオデータが Cubase LE 4 のトラックに取り込まれます。

通常は“異なるトラック”を選びます。こうすれば、取り込んだファイルの数だけ自動的にトラックが作成され、ファイルは縦方向に配置されます。“1つのトラック”を選べると、1本のトラックに横方向に配置されます。



コントロールサーフェースモードの機能早見表

次の表は、HD8/HD16がコントロールサーフェースモード（動作モード = Mackie Control）のとき、それぞれの操作子に割り当てられる機能を示したものです。

	HD8/HD16の操作子	付属オーバーレイシート記入例	対応する機能
フェーダー セクション	パラメーターノブ		対応するトラックのパンの調節
	パラメーターノブ ([RHYTHM])		HD8: 対応するトラックのパンの調節 HD16: 未定義
	ステータスキー		対応するトラックのミュート (Mute)、録音待機 (Rec)、ソロ (Solo) のオン/オフ切り替え
	ステータスキー ([RHYTHM])		HD8: 対応するトラックのミュート (Mute)、録音待機 (Rec)、ソロ (Solo) のオン/オフ切り替え HD16: 未定義
	フェーダー		対応するトラックのボリューム操作
	フェーダー ([RHYTHM])		HD8: 対応するトラックのボリューム操作 HD16: 未定義
	フェーダー ([MASTER])		マスターボリュームの操作
ファンクション /トランスポート セクション	[SELECT]キー		ステータスキーの操作対象の切り替え
	[FUNCTION]キー		CTRLR SETUPメニューに入場する
	[カーソル]キー←、→、↑、↓		コンピューター上のカーソルキーと同様の動作
	ダイヤル		プロジェクトカーソルの位置を移動する
	[REW]キー		巻き戻し
	[REW]キー+[USB]キー		カーソルをプロジェクトの始点に移動 (ゼロロケート)
	[FF]キー		早送り
	[FF]キー+[USB]キー		カーソルをプロジェクトの終点に移動
	[STOP]キー		停止
	[PLAY]キー		再生
	[REC]キー		録音
コントロール セクション	[NEW PROJECT]キー	CYCLE	CYCLE MODEのオン/オフ切り替え
	[PROJECT/UTILITY]キー	PUNCH	パンチインのオン/オフ
	[TRACK PARAMETER]キー	< BANK	1つ前のバンクに切り替える
	[INPUT SOURCE]キー	BANK >	1つ後のバンクに切り替える
	[BOUNCE]キー	MIXER	ミキサーウィンドウの開閉
	[SCENE]キー	PROJECT	プロジェクトウィンドウをアクティブにする
	[AUTO PUNCH IN/OUT]キー	< CHANNEL	1つ前のチャンネルに切り替える
	[A-B REPEAT]キー	CHANNEL >	1つ後のチャンネルに切り替える
	[CLEAR]キー	SAVE	プロジェクトのセーブ
	[CLEAR]キー+[USB]キー		新規プロジェクトとして保存する
	MARKER [◀]キー	PREVIOUS	1つ前のマーカーに移動
	MARKER [▶]キー	NEXT	1つ後のマーカーに移動
	[MARK]キー	ADD	マーカーを追加する
	[CD-R/RW]キー	LEFT	プロジェクトカーソルをパンチインポイントに移動する
	[CD-R/RW]キー+[USB]キー		左側のロケーターを設定する (パンチインポイント設定)
	[CONTROL SURFACE]キー	RIGHT	プロジェクトカーソルをパンチアウトポイントに移動する
	[CONTROL SURFACE]キー+[USB]キー		右側のロケーターを設定する (パンチアウトポイント設定)
	[CONTROL SURFACE]キー+[SHIFT]キー		コントロールサーフェースモードから退場する
	[USB]キー	MC SHIFT	MC (Mackie Control) のシフトキー
	[USB]キー+[SHIFT]キー		マストレイジモードの有効/無効の切り替え
	[INSERT EFFECT]キー	UNDO	アンドゥ
	[INSERT EFFECT]キー+[USB]キー		"Edit Historyダイアログ" を開く
	[CHORUS/DELAY]キー	REDO	リドゥ
	[REVERB]キー	SOLO DEFEAT	全チャンネルのSOLOを無効にする
	[REVERB]キー+[USB]キー		全チャンネルのMUTEを無効にする
	[PATTERN]キー	READ	オートメーションのREADのオン/オフ
	[PATTERN]キー+[USB]キー		全チャンネルのオートメーションのREADのオン/オフ
[SONG]キー	WRITE	オートメーションのWRITEのオン/オフ	
[SONG]キー+[USB]キー		全チャンネルのオートメーションのWRITEのオン/オフ	
[KIT/PROG]キー	FLIP	フェーダーとパラメーターノブの機能を入れ替える	

Cubase LEインストールガイド／ コントロールサーフェース操作ガイド

この「Cubase LEインストールガイド／コントロールサーフェース操作ガイド」では、Cubase LEをパソコンにインストールして、本機をコントロールサーフェースとして使用する手順を説明します。

Cubase LEのインストールと設定

パソコンにCubase LEをインストールし、HD8／HD16をCubase LEのコントロールサーフェースとして利用できるように設定を切り替えます。

NOTE

以下の操作では、本製品に付属の“Cubase LE”と“Factory Recover CD”という2枚のCD-ROMが必要になります。

1. 付属CD-ROM“Cubase LE”を使って、Cubase LEをパソコンにインストールしてください。

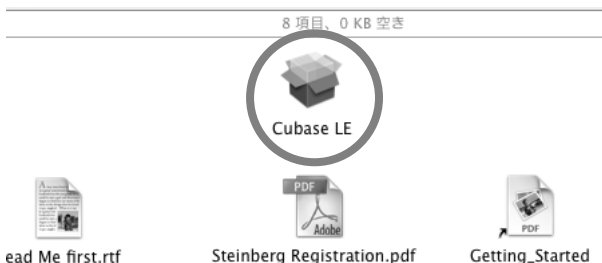
ご使用になるパソコンのOSに応じて、次の操作を行ってください。

■Windows XPの場合

本機に付属するCD-ROM“Cubase LE”をパソコンのCD-ROMドライブに挿入すると、自動的にインストーラーが起動します。画面の指示に従ってCubase LEのインストールを行ってください。

■MacOS Xの場合

本機に付属するCD-ROM“Cubase LE”をMacintoshのCD-ROMドライブに挿入すると、デスクトップに“Cubase LE”アイコンが表示されます。アイコンをダブルクリックして開き、“Cubase LE”インストーラーを使ってインストールを行ってください。



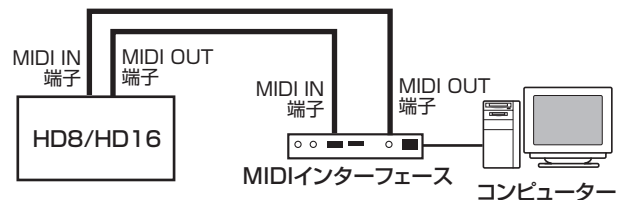
2. HD8／HD16とパソコンを接続してください。

HD8／HD16をパソコンに接続するには、USB端子、またはMIDI IN／OUT端子を使用します（MIDI端子を使用するときは、パソコン側にMIDIインターフェースが必要です）。

■USB端子を使用する場合



■MIDI IN／OUT端子を使用する場合



3. HD8／HD16の電源をオンにしてください。

4. 以下の手順に従ってHD8／HD16を操作し、パソコンとの接続に使用する端子を選択してください。

- ①メイン画面が表示されているときに [PROJECT/UTILITY]キーを押し、左右のカーソルキーを使ってディスプレイの2行目に“SYSTEM”と表示させます。

```
REC UTILITY 4/10  
>SYSTEM
```

- ②[ENTER]キーを押します。
表示が次のようになります。

```
SYSTEM 1/7  
>FOOT SWITCH
```

- ③左右のカーソルキーを使って、ディスプレイの2行目に“CONTROL SURFACE”と表示させ、[ENTER]キーを押します。

現在選ばれている端子が表示されます。

```
Control Surface  
USB
```

④ダイヤルを回して、パソコンとの接続に使用する端子として“USB”（USB端子）または“MIDI I/O”（MIDI IN/OUT 端子）を選びます。ここで選択した端子を経由して、リモート操作の信号がやり取りされます。

⑤繰り返し [EXIT] キーを押して、メイン画面に戻ってください。

5. 次の手順に従ってHD8／HD16を操作し、コントロールサーフェースモードに切り替えてください。

①メイン画面で、[SHIFT] キーを押しながらパッド 2（CONTROL SURFACE）を押します。

コントロールサーフェースモードへの切り替えを確認する表示に変わります。

②[ENTER]キーを押します。

HD8／HD16がコントロールサーフェースモードに切り替わります。



6. Cubase LEを起動します。

Cubase LEを起動するには、使用しているOSに応じて次の操作を行ってください。

■Windows XPの場合

Cubase LEを起動させるには、インストール時にデスクトップに作成されたショートカットアイコンをダブルクリックします。このとき、オーディオの入出力ポートを点検するかどうかを尋ねるウィンドウが表示されますので、“はい”をクリックして点検を実行してください。

■MacOS Xの場合

Cubase LEを起動させるには、“アプリケーション”フォルダにインストールされたCubase LEのアイコンをダブルクリックします。

NOTE

Cubase LEは、必ずHD8／HD16のコントロールサーフェースモードを立ち上げた後に起動してください。

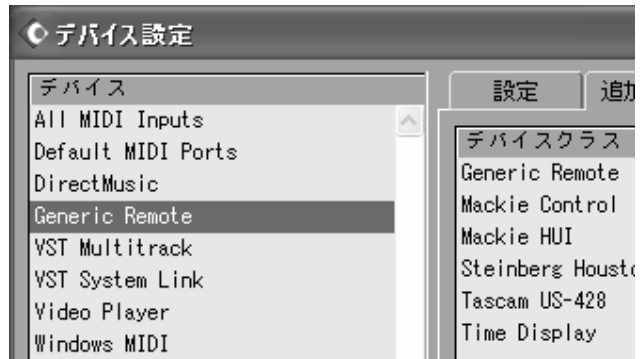
以降の操作は、Windows XP、MacOS Xに共通です。説明にはWindows XPのディスプレイ表示を使用します。

7. Cubase LE が起動したら、“デバイス”メニューから“デバイスの設定...”を選び、“追加／除去”タブをクリックしてください。

デバイス設定ウィンドウでは、接続したHD8／HD16をコントロールサーフェースとして使用するための設定を行います。

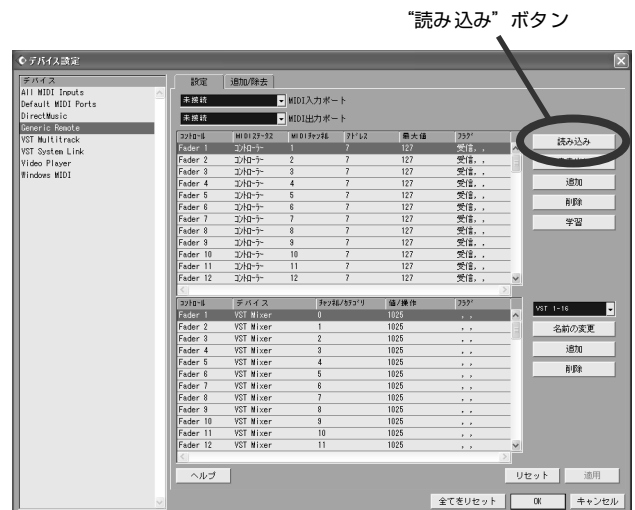


デバイス設定ウィンドウ右部で、デバイスクラスとして“Generic Remote”をクリックして選択し、“追加”ボタンを押します。この操作により、デバイス設定ウィンドウ左部に“Generic Remote”が追加されます。



8. デバイス設定ウィンドウ左部の“Generic Remote”をクリックして選び、“設定”タブをクリックしてください。

次のような表示に切り替わります。



9. “読み込み” ボタンをクリックしてください。

“Generic Remote の読み込み” ウィンドウが表示されます。

- 10.** パソコンの CD-ROM ドライブから “Cubase LE” の CD-ROM ディスクを取り出し、代わりに “Factory Recover CD” を挿入してください。

- 11.** “Factory Recover CD” ディスク内の “CTRL_SF” フォルダを、パソコンのハードディスクにドラッグコピーしてください。

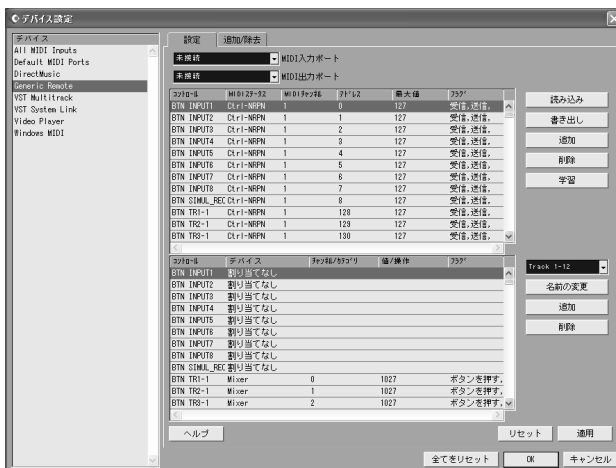
- 12.** “Generic Remote の読み込み” ウィンドウで、パソコンにコピーした “CTRL_SF” フォルダ内にある設定ファイルを選び、“開く” ボタンをクリックしてください。設定ファイルの名称は、次の通りです。

HD8の設定ファイル CBLE_8.xml

HD16の設定ファイル CBLE_16.xml



“開く” ボタンをクリックして Generic Remote の設定ファイルを読み込むと、その内容がデバイス設定ウィンドウに反映されます。



- 13.** Cubase LEのMIDI入力ポートとMIDI出力ポートのプルダウンメニューを使用して、HD8 / HD16を接続しているMIDIポートを選択してください。

■USB経由で接続している場合

MIDI入力ポートとMIDI出力ポートで、“ZOOM HD8

MIDI” (HD8の場合) または “ZOOM HD16 MIDI” (HD16の場合) を選択します。

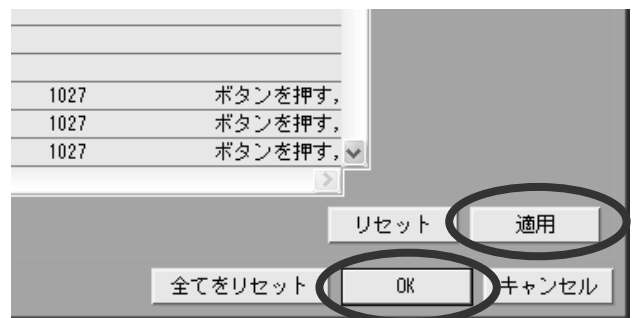
■MIDI経由で接続している場合

MIDI インターフェースなどの対応するMIDIポートを選択します。



- 14.** “適用” ボタンをクリックし、次に “OK” ボタンをクリックしてください。

デバイス設定ウィンドウが閉じ、HD8 / HD16を使って Cubase LE をリモートコントロールできるようになります。



HINT

Cubase LE 内の設定は自動的に保存されます。次回 Cubase LE を起動するときは、上記の設定を再度行う必要はありません。

コントロールサーフェースモードを抜け出るには

コントロールサーフェースモードを抜け出て通常モードに戻すには、次の操作を行ってください。

1. コントロールサーフェースモードを出るには、[SHIFT] キーを押しながらパッド 2 (CONTROL SURFACE) を押してください。表示が次のようになります。

Control Surface Terminate?

2. [ENTER] キーを押してください。

メイン画面に戻り、通常のレコーダーの動作に戻ります。

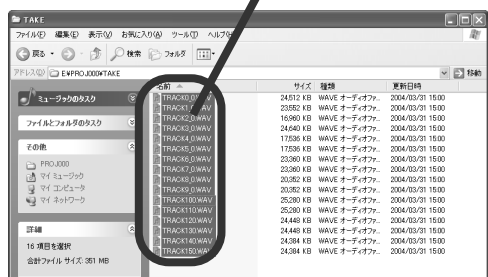
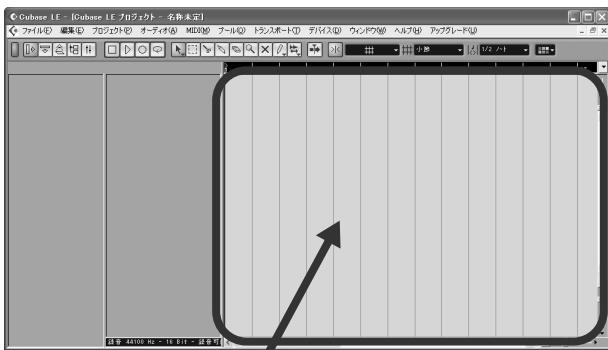
クイックガイド：オーディオデータをCubase LEに取り込む

ここでは、HD8／HD16のオーディオデータをWAVファイルとしてCubase LEに取り込む方法について説明します。これを行うには、次の2つの方法があります。

- ドラッグ&ドロップで取り込む
- “読み込み” コマンドで取り込む

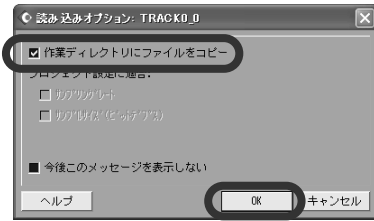
ドラッグ&ドロップで取り込む

1. コンピューターとHD8/HD16をUSBケーブルで接続してください。
2. HD8/HD16をマストレージモードに切り替えてください。
操作方法は、オペレーションマニュアルのP161をご参照ください。
3. Cubase LEを起動し、取り込み先となるプロジェクトを開いてください。
4. コンピューター上に表示されるHD8/HD16のハードディスクの中から、取り込み元となるオーディオデータの入ったプロジェクトの“TAKE”フォルダを開いてください。操作方法はオペレーションマニュアルのP162をご参照ください。
5. “TAKE”フォルダの中から取り込みたいファイルを選択し（複数選択可）、Cubase LEのプロジェクトウィンドウにドラッグ&ドロップしてください。



“読み込みオプション” ウィンドウが開きます。

6. “読み込みオプション” ウィンドウの“作業ディレクトリにファイルをコピー” にチェックを付け、“OK” をクリックしてください。



オーディオデータがCubase LEのトラックに取り込まれます。

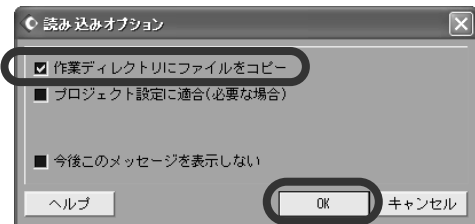
“読み込み” コマンドで取り込む

1. “ドラッグ&ドロップで取り込む”の手順1～3に従って、Cubase LEのプロジェクトを開いてください
2. Cubase LEのメニューから“ファイル” → “読み込み” → “オーディオファイル”を選択してください。“オーディオの読み込み” ウィンドウが開きます。
3. 取り込みたいファイルを含むプロジェクトの“TAKE”フォルダの中からオーディオファイルを選択して（複数選択可），“開く”をクリックしてください。



“読み込みオプション” ウィンドウが開きます。

7. “読み込みオプション” ウィンドウの“作業ディレクトリにファイルをコピー” にチェックを付け、“OK” をクリックしてください。



オーディオデータがCubase LEのトラックに取り込まれます。

コントロールサーフェース機能を使う

ここでは、HD8／HD16をコントロールサーフェースモードで使用するときの操作方法について説明します。

NOTE

本紙で説明するコントロールサーフェース機能は、ZOOMが提供する設定ファイルをCubase LEに読み込ませたときにのみ有効です。

コントロールサーフェースモードについて

HD8／HD16をコントロールサーフェースモードに切り替えると、HD8／HD16のキーやフェーダーを使って、Cubase LEのトランスポート操作やミックス操作をリモートコントロールできます。

HD8／HD16をコントロールサーフェースモードに切り替えたときは、HD8／HD16のディスプレイが次のように変わります。

Stat: Mute Bank: 1
PAN

NOTE

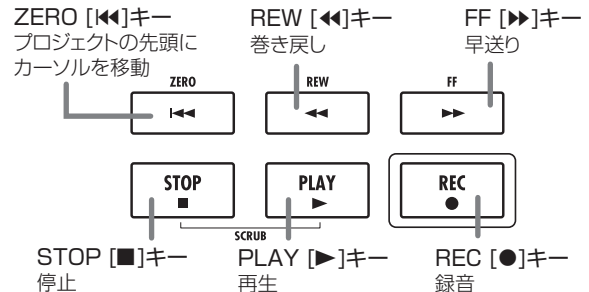
HD8／HD16をコントロールサーフェースモードで使用している間、レコーダーの操作は行えません。

コントロールサーフェースモードでは、HD8／HD16のレコーダー機能が使用できなくなり、パネル上のキーやノブに、Cubase LEの特定の機能が割り当てられます。また、HD8／HD16のレベルメーターにCubase LEの対応するトラックのフェーダーの位置が表示されます。

HD8／HD16のキーやノブに割り当てられる機能の一覧については、本紙の“コントロールサーフェースモードの機能早見表”（→P8）をご参照ください。

トランスポートを操作する

HD8／HD16がコントロールサーフェースモードのとき、トランスポートセクションの各キーは、Cubase LEの次の機能に対応します。



ファンクション／トランスポートセクションのその他のキーが対応するCubase LEの機能については、本紙の“コントロールサーフェースモードの機能早見表”（→P8）をご参照ください。

フェーダーセクションを操作する

HD8／HD16がコントロールサーフェースモードのとき、フェーダーセクションの操作子（フェーダー、ステータスキー、パラメーターノブ）を使って、Cubase LEの主要なパラメーターを操作できます。各操作子に対応するCubase LEの機能については、本紙の“コントロールサーフェースモードの機能早見表”（→P8）をご参照ください。

NOTE

HD8の場合、[RHYTHM]のフェーダー、ステータスキー、パラメーターノブも使用します。HD16では、これらの操作子がすべて“未定義”になっています。

フェーダーセクションで操作するバンクを切り替える

フェーダーセクションの操作子（フェーダー、ステータスキー、パラメーターノブ）を使って操作するトラックの組み合わせを“バンク”と呼びます。このバンクを切り替えることで、より多くのCubase LEのトラックを操作することができます。

HD8ではバンク1～4、HD16ではバンク1～3が利用できます。次ページの表は、それぞれのモデルで使用可能なバンクで、フェーダーセクションの操作子に対応するCubase LEのトラック番号を表したものです。

HD8で使用可能なバンク

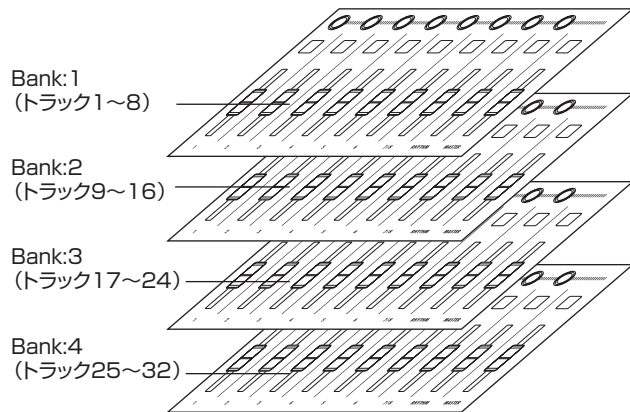
操作子	1	2	3	4	5	6	7/8	[RHYTHM]
Bank 1	Tr. 1	Tr. 2	Tr. 3	Tr. 4	Tr. 5	Tr. 6	Tr. 7	Tr. 8
Bank 2	Tr. 9	Tr. 10	Tr. 11	Tr. 12	Tr. 13	Tr. 14	Tr. 15	Tr. 16
Bank 3	Tr. 17	Tr. 18	Tr. 19	Tr. 20	Tr. 21	Tr. 22	Tr. 23	Tr. 24
Bank 4	Tr. 25	Tr. 26	Tr. 27	Tr. 28	Tr. 29	Tr. 30	Tr. 31	Tr. 32

HD16で使用可能なバンク

操作子	1	2	3	4	5	6
Bank 1	Tr. 1	Tr. 2	Tr. 3	Tr. 4	Tr. 5	Tr. 6
Bank 2	Tr. 13	Tr. 14	Tr. 15	Tr. 16	Tr. 17	Tr. 18
Bank 3	Tr. 25	Tr. 26	Tr. 27	Tr. 28	Tr. 29	Tr. 30
操作子	7	8	9/10	11/12	13/14	15/16
Bank 1	Tr. 7	Tr. 8	Tr. 9	Tr. 10	Tr. 11	Tr. 12
Bank 2	Tr. 19	Tr. 20	Tr. 21	Tr. 22	Tr. 23	Tr. 24
Bank 3	Tr. 31	Tr. 32	Tr. 33	Tr. 34	Tr. 35	Tr. 36

例えば、HD8の場合、バンク1が選ばれているときはCubase LE上のトラック1～8、バンク2に切り替えるとトラック9～16が操作対象となります。

● バンクの仕組み (HD8の場合)



バンクを切り替えるには、左右のカーソルキーを使用します。現在選ばれているバンクは、ディスプレイ1行目で確認できます。



ステータスキーで操作する機能を選ぶ

HD8 / HD16のステータスキーを使えば、Cubase LEの対応するトラックのMute (ミュート)、Rec (録音待機)、Solo (ソロ) のオン/オフを切り替えることができます。ステータスキーで操作する機能を選ぶには、次のように操作します。

1. 左右のカーソルキーを使って、Mute、Rec、Soloのオン/オフを切り替えたいトラックを含むバンクを選んでください。

現在ステータスキーに割り当てられている機能(Mute、Rec、Solo) は、ディスプレイ1行目の左側の表示で確認できます。

ステータスキーでオン/オフ切り替え可能な機能



2. ステータスキーで操作する機能を切り替えるには、[SELECT]キーを繰り返し押ししてください。

[SELECT]キーを押すたびに、ステータスキーに割り当てられている機能がMute→Rec→Soloと切り替わります。

3. 目的のトラックのステータスキーを押し、選択したパラメーターのオン/オフを切り替えてください。

パラメーターノブで操作するパラメーターを選ぶ

HD8 / HD16のパラメーターノブを使えば、Cubase LEのパン、EQ、エフェクトのセンド量をトラックごとに調節できます。ノブで操作するパラメーターを選ぶには、次のように操作します。

1. 左右のカーソルキーを使用して、パラメーターを調節したいトラックを含むバンクを選んでください。

現在パラメーターノブに割り当てられている機能は、ディスプレイ2行目で確認できます。



2. 調節したいパラメーターに対応するキーを押し、パラメーターを呼び出してください。

次ページの表は、操作可能なCubase LEのパラメーターと、それに対応するHD8 / HD16のキーを表したものです。なお、PAN以外のパラメーターは、同じキーを繰り返し押し、複数のパラメーターの中から1つを指定します。

HD8/HD16のキー	ディスプレイの表示	Cubase LEの対応パラメーター	キーを繰り返し押し続けて切り替え可能なパラメーター
[TRACK PARAMETER] キー	SEND1～SEND4	SEND1～SEND4	SEND1～4のOnOffとLevelを順に表示
[INPUT SOURCE] キー	PAN	PAN	--
[BOUNCE] キー	EQ1	EQ:LOW	EQ1のOnOff, Gain, Freq, Qを順に表示
[SCENE] キー	EQ2	EQ:LO MID	EQ2のOnOff, Gain, Freq, Qを順に表示
[AUTO PUNCH IN/OUT] キー	EQ3	EQ:HI MID	EQ3のOnOff, Gain, Freq, Qを順に表示
[A-B REPEAT] キー	EQ4	EQ:HI	EQ4のOnOff, Gain, Freq, Qを順に表示

例えば、[TRACK PARAMETER] キーを繰り返し押し続けた場合、操作対象となるパラメーターは、SEND1: OnOff→SEND1:Level→SEND2:OnOff→SEND2:Levelの順に切り替わります。

3. 目的のトラックに対応するパラメーターノブを回し、値を調節してください。

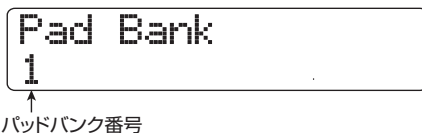
パッドを操作する

HD8/HD16がコントロールサーフェースモードのときでも、パッドの演奏情報をMIDIメッセージとして出力できます。HD8/HD16がコントロールサーフェースモードのときは、次の操作でパッドの各種設定が行えます。

パッドバンクを切り替える

コントロールサーフェースモードでパッドバンクを切り替えると、それぞれのパッドに割り当てられたノートナンバーの組み合わせが切り替わります(パッドごとに対応するMIDIノートナンバーについては、オペレーションマニュアルのP193をご参照ください)。

1. [SHIFT] キーを押しながら、パッド5(CHORUS/DELAY) を押してください。
表示が次のように変わります。



2. ダイアルを回して、利用したいパッドバンク(1～3)を選んでください。
設定が済んだら、[EXIT] キーを押して元の画面に戻ってください。

パッドの感度を変える

パッドを叩いたときの強さに対する音量変化(パッドの感度)を調節します。

1. [SHIFT] キーを押しながら、パッド1(CD-R/RW) を押してください。
表示が次のように変わります。



選択可能な感度の設定とその内容については、オペレーションマニュアル(→P125)をご参照ください。

2. ダイアルを回して、パッドの感度を選択してください。
設定が済んだら、[EXIT] キーを押して元の画面に戻ってください。

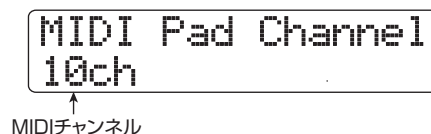
HINT

パッドの感度設定は、HD8/HD16がレコーダー動作時のときの設定と共通です。このため、コントロールサーフェースモードを抜けても、設定内容は引き続き有効です。

MIDIチャンネルを設定する

MIDIメッセージの送信チャンネルを設定します。

1. [SHIFT] キーを押しながら、パッド6(REVERB) を押してください。
表示が次のように変わります。



2. ダイアルを回して、MIDIチャンネル(1ch～16ch)を選んでください。
設定が済んだら、[EXIT] キーを押して元の画面に戻ってください。

コントロールサーフェースモードの機能早見表

NOTE

下の対応表は、ZOOMが提供する設定ファイルをCubase LEに読み込ませたときにのみ有効となります。

	操作子	説明	
フェーダーセクション	パラメーターノブ	対応するトラックのパン、EQ、エフェクトのセンドレベルの調節	
	パラメーターノブ ([RHYTHM])	HD8: 対応するトラックのパン、EQ、エフェクトセンドレベルの調節 HD16: 未定義	
	ステータスキー	対応するトラックのミュート (Mute)、録音待機 (Rec)、ソロ (Solo) のオン/オフ切り替え	
	ステータスキー ([RHYTHM])	HD8: 対応するトラックのミュート (Mute)、録音待機 (Rec)、ソロ (Solo) のオン/オフ切り替え HD16: 未定義	
	ステータスキー ([MASTER])	未定義	
	フェーダー	対応するトラックのボリュームの操作	
	フェーダー ([RHYTHM]) フェーダー ([MASTER])	HD8: 対応するトラックのボリュームの操作 HD16: 未定義 マスターボリュームの操作	
ファンクション/トランスポートセクション	[SELECT]キー	ステータスキーの操作対象の切り替え	
	[SOLO]キー	Mixerの開閉	
	カーソルキー←、→	フェーダーセクションのバンク切り替え (HD8:バンクは4つ、HD16:バンクは3つ)	
	カーソルキー↑	上へナビゲート	
	カーソルキー↓	下へナビゲート	
	[ENTER]キー	プロジェクトウィンドウを最前面に移動	
	ダイヤル	ポジションの移動	
	ZERO [⏮]キー	プロジェクトの先頭にカーソルを移動	
	REW [⏮]キー	巻き戻し	
	FF [⏭]キー	早送り	
	STOP [■]キー	停止	
	PLAY [▶]キー	再生	
	REC [●]キー	録音	
コントロールセクション	[NEW PROJECT]キー	Cycle modeのオン/オフ切り替え	
	[PROJECT/UTILITY]キー	MONITORINGのオン/オフ切り替え	
	[TRACK PARAMETER]キー	パラメーターノブの操作対象としてSENDを選択	
	[INPUT SOURCE]キー	パラメーターノブの操作対象としてPANを選択	
	[BOUNCE]キー	パラメーターノブの操作対象としてEQ1を選択	
	[SCENE]キー	パラメーターノブの操作対象としてEQ2を選択	
	[AUTO PUNCH IN/OUT]キー	パラメーターノブの操作対象としてEQ3を選択	
	[A-B REPEAT]キー	パラメーターノブの操作対象としてEQ4を選択	
	[CLEAR]キー	VSTチャンネル設定ウィンドウを開く	
	MARKER [⏮]/[⏭]キー	マークした位置、PI/POポイント、プロジェクトの先頭にカーソルを移動	
	[MARK]キー	現在のカーソル位置をマークする	
パッドセクション	パッド1～9	演奏情報をMIDIメッセージとして送信	
	[CD-R/RW]キー	+ [SHIFT]キー	HD8/HD16のパッドの感度調節の画面を表示
	[CONTROL SURFACE]キー		コントロールサーフェースモードの退場
	[USB]キー		マスマストレージモードの有効/無効の切り替え
	[CHORUS/DELAY]キー		HD8/HD16のパッドバンク切り替え画面を表示
	[REVERB]キー		HD8/HD16のMIDIチャンネル選択画面を表示